

令和5年度 第1回学校評議員会 議事録

- 1 日時 令和5年5月31日(水) 15:00~16:30
- 2 会場 本校視聴覚室
- 3 出席者 学校評議員 4名(欠席1名)
学校側 校長、副校長、事務長、総務主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、保健主事、電子機械科主任、建設環境科主任、総務部担当
- 4 進行 総務部担当
- 5 記録 総務部担当
- 6 内容
 - (1) 委嘱状交付及び校長挨拶
 - (2) 令和5年度学校運営方針について(校長)
 - (3) 学校概況説明(副校長)
 - ア 今年度の在籍数と令和4年度卒業生の進路について
 - イ 令和5年度卒業予定者の進路希望について
 - ウ 資格取得について
 - エ クラブ活動について
 - オ 学校評価について
 - カ 令和5年度高校の魅力化促進事業について
 - (4) 令和4年度重点目標に対する評価と令和5年度重点目標について(各主任より)
 - (5) 意見交換

進 行：学校評議員の皆様より、本校に対する率直な御意見や御要望、御質問などをいただきたい
と思います。

A 評議員：小さい学校で生徒数が少ないなかで、一生懸命やられているのは素晴らしいと思いました。最近、社会問題になっているいじめの問題など、いろいろな事件を起こす人が低年齢化しているのを見てみると、我々の時代は、道徳の授業があって良いことと悪いことの分別や何が大事なのかというのを学校や部活動、先輩からも教わったような気がします。最近の事件でいちばん大切なのは人の命ということを何かで見ましたが、そういうことを教えることが大事だと思います。学校の成績や学力を上げるのも大事ですが、教育をとおした人づくりがいちばん大事だと思います。また、企業が求めるニーズや生徒にとって必要なスキルは、時代によって変化するので、先生方も企業から聞いて生徒にそれをフィードバックしていくことが大事だと思います。新入社員が入社した際、会社で挨拶や言葉遣いを教えていますが、高校時代に部活動を一生懸命やった人は挨拶なども先輩に教わったり、メンタルも強いので、社会に出てから大概最初からできています。学校の成績が多少悪くても非常に伸びる新入社員もいますし、学校の成績がものすごく良くてもやたらすぐ休んだり、メンタル的に少し弱い社員もいます。何度か久慈工業高校に来て、実習の授業を見た際に、実習をさせながら結構考えさせているのが、実は社会に出てからいちばん大事なことで、製造業は常にトライアンドエラーに対して解決するまでいろいろな対策をしますもので、課題解決能力が大事です。生徒には考えさせる実習をしてほしいと思います。また、先生は結構大変だと思います。私も、前職で就職して1週間ぐらいで辞めようとしたとき、恩師に相談に行き、その後25年働きました。卒業して就職したときに何かあったら頼れ

るのは先生だと思えます。

B 評議員：経営者の方のお話を聞いた際、経営者の方の受け止め方というのはポジティブです。今回の1年生だったら80名定員に25名しか入らなかったのではなく、25名来てくれたと考えます。少人数でひとりに向けるエネルギーも大きく、指導もしやすく、先生との関係も良くなっていき、すごくいい方向に考えて、先生方も指導していただきたいです。製造会社の社長さんのお話で、リーマンショックの時、仕事がないので朝礼での返事や挨拶、清掃を一生懸命やったが、結果はすぐには出なかった。しかし、それがきっかけになって、新たな取引先が2件、工場に来た際に社員の挨拶や工場内の行き届いた清掃を見て、この会社にお願ひしたいと新たな仕事を受注できた話をしてた方もいました。

C 評議員：地域との関わり、あるいは業者さんとの講習会や講座で、子どもたちがいろいろな方と関わりを持ち、交流ができることで、人間形成がスムーズにあって、学校の評価にも繋がっていくのではないかと思います。こういう少人数の実業高校でいろいろな体験をすることは、先生とのこれからの繋がりも卒業後以降も繋がりがあると思えますし、相談も受けると思えますが、いちばんは地域との繋がりであったり、子どもたちの人との関わりかたも含めて、先生のほうから教育してもらうのが成長に繋がると感じております。

D 評議員：毎年、感じるのは子どもたちの持っている力を伸ばしてくれる高校に何とか進ませたい、自分が力を伸ばせる高校に行かせたいと思っています。久慈工業高校の魅力化プロジェクトは、非常に有効な活動ではないかと思えます。昨年度も中学校の授業の支援に来ていただいたり、久慈工業高校の課題研究発表会に招いていただいたり、その貴重な発表会の場で中学生の発表までさせていただきました。ぜひ今年も魅力化プロジェクトの一環として、お願ひしたいです。また、コロナ禍で高校入試の面接がないので、中学校時点での十分な面接指導や自己アピールカードを書くなど履歴書に近いようなものの指導が弱くなっています。就職を目指す実業高校にとって、これからの子どもたちは今まで以上に大変ではないかと思うと心配です。常に指導はしていますが、受験というものを目前にしたモチベーションが高まっているときのタイムリーな指導が落ち込んでおり、心配です。次に、久慈東高校との統合でどのような統合の仕方になるのか、学校の中でも話題になっております。ただ、これから決まっていくことではあるとは思っています。

A 評議員：私は香港にサラリーマン時代にいたことがありますが、海外に行くとプレゼンのスキルが日本人は低いと言われていました。実は香港だと中学校、小学校で一生懸命プレゼンをする教育をするらしいです。高校ではディベートの授業があり、いかに自分の考えを相手にぶつけていくかという教育をするらしいです。以前に久慈工業高校の課題研究発表会を聞いたときにそこが弱いと感じました。社会ではかなり有効的に使えるスキルになっていますので、授業の中で発表させる場面を増やしてほしいと思えます。

D 評議員：建設環境科の人数が少ないですが、中学校の卒業生に建設環境科の希望者もいました。しかし、最後に電子機械科にプログラミング授業で交流していただいた後、科を変更した子どもがいました。今年度は、建設環境科とも授業交流ができればいいと思えます。

B 評議員：失敗する機会を増やしてあげてほしいと思えます。失敗するということは、初めてチャレンジするということですし、その失敗したことやチャレンジしたことを褒めてあげてほしいです。初めの失敗を先生方が成功に導いて一緒に頑張っていくことで、子どもたちの喜びや自己肯定感を高めることに繋がっていくと思えます。